

# 平成24年度 病害虫発生予察情報

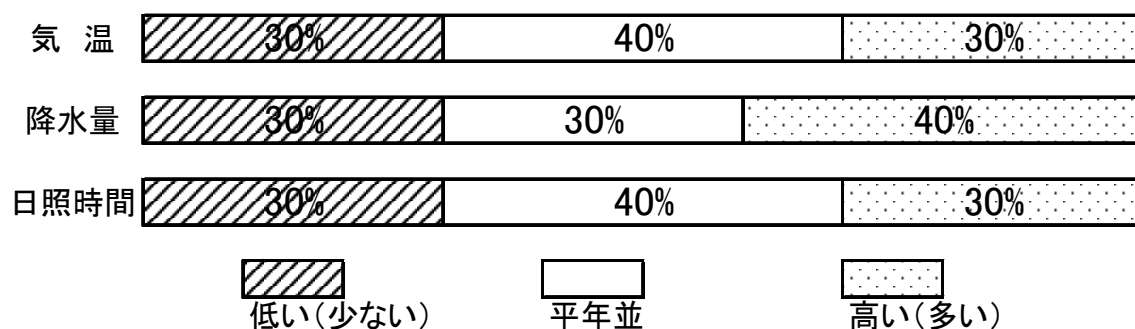
## 発生予報第5号（7月）

平成24年7月2日  
島根県

### 予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量		
普通作物	イネ	葉いもち	平年並		
		穂いもち	平年並		
		紋枯病	平年並		
		白葉枯病	平年並		
		縞葉枯病	平年並		
		ヒメトビウンカ	平年並		
		ニカメイチュウ	平年並		
		ツマグロヨコバイ	平年並		
		セジロウンカ	平年並		
		トビイロウンカ	平年並		
		コブノメイガ	平年並		
		斑点米カメムシ類	やや多い		
		果樹	ナシ	黒斑病	平年並
				黒星病	やや少ない
シンクイムシ類	平年並				
ハダニ類	多い				
アブラムシ類	平年並				
カキ	うどんこ病			やや多い	
	チャノキアザミウマ			やや少ない	
果樹全般	カメムシ類	平年並			

中国地方1か月予報(6月30日～7月29日・広島地方气象台6月29日発表)  
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



### A. 普通作物

#### 1) イネ

##### (1) 葉いもち

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

平年並

予報の根拠

- ① 6月26日現在、巡回調査地点における発生圃場率は0%（平年4.0%、前年1.4%）とやや少ない。
- ② 感染好適日は、6月第6半旬～7月第1半旬に県内一部地域で出現しており、潜伏感染が見込まれる。
- ③ 向こう1か月の気象は、本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

- (2) 穂いもち  
 予報内容  
 発生地方 県内全域  
 発生量 平年並  
 予報の根拠  
 ①伝染源となる葉いもちの発生量は平年並みと予想される。  
 ②7月後半の気象は、本病の発生を特に抑制する要因とはならない。
- (3) 紋枯病  
 予報内容  
 発生地方 県内全域  
 発生量 平年並  
 予報の根拠  
 ①6月26日現在、巡回調査地点における発病株率は0.2%（平年0.2%）と平年並みである。  
 ②向こう1か月の気象は、本病の発生を特に抑制する要因とはならない。
- (4) 白葉枯病  
 予報内容  
 発生地方 県内常習発生地帯  
 発生量 平年並  
 予報の根拠  
 ①6月26日現在、発生は確認されていない。  
 ②向こう1か月の気象は、本病の発生を特に抑制する要因とはならない。
- (5) 縞葉枯病  
 予報内容  
 発生地方 県内全域  
 発生量 平年並  
 予報の根拠  
 ①県内の一部で発生が認められる。  
 ②媒介虫であるヒメトビウンカの発生量は平年並みと予想される。
- (6) ヒメトビウンカ  
 予報内容  
 発生地方 県内全域  
 発生量 平年並  
 予報の根拠  
 ①6月下旬の巡回調査では、捕獲数は0.1頭（平年0.3頭／50株）、発生圃場率は7.4%（平年10.2%）で発生量は平年並みである。  
 ②向こう一か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。
- (7) ニカメイチュウ（第1世代）  
 予報内容  
 発生地方 県内全域  
 発生量 平年並  
 予報の根拠  
 ①予察灯、フェロモントラップにおける誘殺数はほぼ平年並みである。  
 ②6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は7.7%（平年5.0%）、被害株率は0.3%（平年0.3%）で発生量は平年並みである。  
 ③向こう一か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。
- (8) ツマグロヨコバイ  
 予報内容  
 発生地方 県内全域  
 発生量 平年並  
 予報の根拠  
 ①6月下旬の巡回調査では、捕獲数は2.3頭（平年2.2頭／50株）、発生圃場率は38.1%（平年36.8%）で発生量は平年並みである。  
 ②予察灯での誘殺数は平年並みである。  
 ③向こう一か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。
- (9) セジロウンカ  
 予報内容  
 発生地方 県内全域  
 発生量 平年並  
 予報の根拠  
 ①予察灯への初飛来は、浜田市で6月8日に観察された。6月末までの誘殺数は平年に比べてやや少ない。  
 ②6月下旬の巡回調査では、捕獲数は0.2頭（平年4.0頭／50株）、発生圃場率は

11.9%（平年45.0%）で発生量は平年に比べてやや少ない。

③向こう一か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。梅雨明けまでは多飛来に注意が必要である。

(10) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

①予察灯、粘着誘殺灯への飛来は6月末までに認められない。

②6月下旬の巡回調査では圃場での発生は認められない。

③向こう一か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。梅雨明けまでは多飛来に注意が必要である。

(11) コブノメイガ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

①予察灯、粘着誘殺灯への飛来は6月末までに認められない。

②6月下旬の巡回調査では圃場での成幼虫の発生は認められない。

③向こう一か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。梅雨明けまでは多飛来に注意が必要である。

(12) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや多い

予報の根拠

①6月下旬の圃場周辺雑草地でのすくい取り調査では、カメムシ類合計で3.4頭/10回振り、調査地点の33%（去年同期：1.8頭/10回振り・41%）で発生量は平年に比べてやや多い。主要種はアカスジカスミカメである。

②向こう一か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県内ナシ（二十世紀）栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

①6月26日の巡回調査では、発病葉率は5.8%（平年5.9%）であり、発生量は平年並みである。

②向こう一か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生量 やや少ない

予報の根拠

①6月26日の巡回調査では、発病葉率は0.2%（平年1.0%）であり、発生量は平年に比べてやや少ない。

②向こう一か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生時期 平年並

発生量 平年並

予報の根拠

①フェロモントラップ（安来市、出雲市）でのナシヒメシンクイ第1世代の雄成虫の誘殺盛期、誘殺数はともに平年並みである。

②向こう一か月の気象は本種の発生を抑制する要因とはならない。

(4) ハダニ類

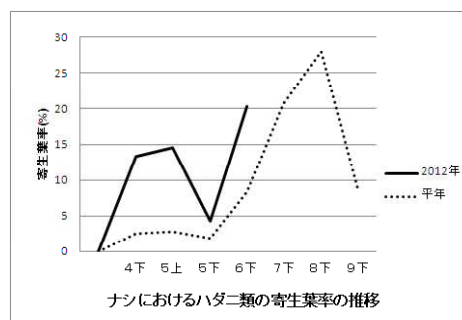
予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生量 多い

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では寄生葉率20.2% (平年9.1%) で多い。
- ② 向こう一か月の気象は本虫の発生を抑制する要因とはならない。
- ③ クワオオハダニが見られる圃場も散見される。クワオオハダニに効果の低い薬剤があるため薬剤の種類には注意が必要である。



(5) アブラムシ類

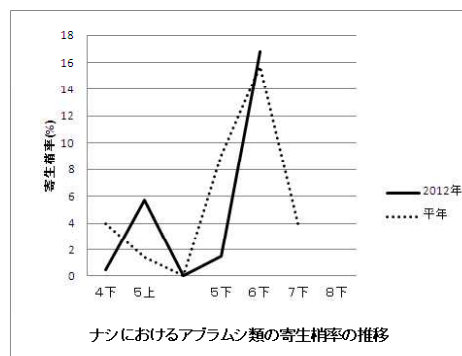
予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では寄生梢率16.8% (平年15.7%) で平年並みである。
- ② 向こう一か月の気象は本虫の発生を特に抑制する要因とはならない。



2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯

発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 6月28日の巡回調査では、発病葉率は2.9% (平年0.2%) であり、発生量は平年と比べて多い。
- ② 向こう一か月の気象は本病の発生に抑制的である。

(2) チャノキイロアザミウマ

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯

発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 露地圃場に設置した粘着トラップでの誘殺数は平年に比べてやや少ない。
- ② 向こう一か月の気象は本虫の発生を特に助長する要因とはならない。

3) 果樹全般 (カキ、ブドウ、ナシ等)

(1) カメムシ類

予報内容

発生地方 県内果樹栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

- ① 予察灯 (出雲市) での7月1半旬までの誘殺数は164頭 (平年200.3頭) で平年並みである。
- ② 向こう一か月の気象は本虫の発生を特に抑制する要因とはならない。
- ③ ヒノキ花粉飛散量は平年に比べ少なく毬果も少ないと予想され、圃場への飛来が早くなるおそれがあり注意が必要である。

島根県病害虫防除所

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ

<http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>